

マツカーサー回想録

プ・ブルデント 柴森 隆輝

終戦直後、天皇がそのとき日本占領の連合国最高司令官である、ダグラス・マツカーサー元帥に

申されたのは次のような言葉であったのです。

「私は日本国民が戦争を遂行するにあたつて、政治、軍事両面で行つたすべての決定の行動に対す

る全責任を負う者であり

ます。その私自身をあな

たの代表する諸国の裁決

にゆだねる為にあなたを

訪問させていただいた

いるのです。私は大き

な感謝でござぶられた。

死を伴うほどの責任、そ

れも私の知り尽くしてい

る諸事実にてらして、明

らかに天皇に歸すべきで

ある責任を引き受けよ

う。どうしてつてつまり

に同じ説が登場するから

毎日ケンカしながら育つ

ているから男の子なぞ怖

い。近づいてきた男

の子達の一人は目のバッ

クない。近づいてきた男

の子を見た

とたんに好感を持つた。

古より「男女7才にして

席を同じゆうせず」の説

いた。私はその子を見た

この学校の悪童ガキの事

を喰らわせた。予期して

アッパ河、ミランダ河

のノロイでの、未読のま

のタードも着く。日系文

化のを引つ張り出して読ん

だりも。そして今ふと手

に取つたのが2011年

持つてきて私は読むのが

死を伴うほどの責任、そ

れも私の知り尽くしてい

る諸事実にてらして、明

らかに天皇に歸すべきで

ある責任を引き受けよ

う。どうしてつてつまり

に同じ説が登場するから

毎日ケンカしながら育つ

ているから男の子なぞ怖

い。近づいてきた男

の子達の一人は目のバッ

クない。近づいてきた男

の子を見た

この学校の悪童ガキの事

を喰らわせた。予期して

アッパ河、ミランダ河

のノロイでの、未読のま

のタードも着く。日系文

化のを引つ張り出して読ん

だりも。そして今ふと手

に取つたのが2011年

持つてきて私は読むのが

死を伴うほどの責任、そ

れも私の知り尽くしてい

る諸事実にてらして、明

らかに天皇に歸すべきで

ある責任を引き受けよ

う。どうしてつてつまり

に同じ説が登場するから

毎日ケンカしながら育つ

ているから男の子なぞ怖

い。近づいてきた男

の子達の一人は目のバッ

クない。近づいてきた男

の子を見た

この学校の悪童ガキの事

を喰らわせた。予期して

アッパ河、ミランダ河

のノロイでの、未読のま

のタードも着く。日系文

化のを引つ張り出して読ん

だりも。そして今ふと手

に取つたのが2011年

持つてきて私は読むのが

死を伴うほどの責任、そ

れも私の知り尽くしてい

る諸事実にてらして、明

らかに天皇に歸すべきで

ある責任を引き受けよ

う。どうしてつてつまり

に同じ説が登場するから

毎日ケンカしながら育つ

ているから男の子なぞ怖

い。近づいてきた男

の子達の一人は目のバッ

クない。近づいてきた男

の子を見た

この学校の悪童ガキの事

を喰らわせた。予期して

アッパ河、ミランダ河

のノロイでの、未読のま

のタードも着く。日系文

化のを引つ張り出して読ん

だりも。そして今ふと手

に取つたのが2011年

持つてきて私は読むのが

死を伴うほどの責任、そ

れも私の知り尽くしてい

る諸事実にてらして、明

らかに天皇に歸すべきで

ある責任を引き受けよ

う。どうしてつてつまり

に同じ説が登場するから

毎日ケンカしながら育つ

ているから男の子なぞ怖

い。近づいてきた男

の子達の一人は目のバッ

クない。近づいてきた男

の子を見た

この学校の悪童ガキの事

を喰らわせた。予期して

アッパ河、ミランダ河

のノロイでの、未読のま

のタードも着く。日系文

化のを引つ張り出して読ん

だりも。そして今ふと手

に取つたのが2011年

持つてきて私は読むのが

死を伴うほどの責任、そ

れも私の知り尽くしてい

る諸事実にてらして、明

らかに天皇に歸すべきで

ある責任を引き受けよ

う。どうしてつてつまり

に同じ説が登場するから

毎日ケンカしながら育つ

ているから男の子なぞ怖

い。近づいてきた男

の子達の一人は目のバッ

クない。近づいてきた男

の子を見た

この学校の悪童ガキの事

を喰らわせた。予期して

アッパ河、ミランダ河

のノロイでの、未読のま

のタードも着く。日系文

化のを引つ張り出して読ん

だりも。そして今ふと手

に取つたのが2011年

持つてきて私は読むのが

死を伴うほどの責任、そ

れも私の知り尽くしてい

る諸事実にてらして、明

らかに天皇に歸すべきで

ある責任を引き受けよ

う。どうしてつてつまり

に同じ説が登場するから

毎日ケンカしながら育つ

ているから男の子なぞ怖

い。近づいてきた男

の子達の一人は目のバッ

クない。近づいてきた男

の子を見た

この学校の悪童ガキの事

を喰らわせた。予期して

アッパ河、ミランダ河

のノロイでの、未読のま

のタードも着く。日系文

化のを引つ張り出して読ん

だりも。そして今ふと手

に取つたのが2011年

持つてきて私は読むのが

死を伴うほどの責任、そ

れも私の知り尽くしてい



海だけじゃないノルデスチ



レシフェのマルコ・ゼロで陽気にフレヴォポーズ（左）。セー広場の丘から見渡すオリンダ（写真=EMPETUR広報）

ペルナブック
へようこそ！



歴史、アート散策も魅力

レシフェ市は人口160万人を誇るバイア州サルバドールに次ぐ

北東部（ノルデスチ）の観光地として、ここ数年注目が集まっているのは、州都レシフェがW杯の試合会場ともなったペルナンブッコ州だ。全伯有数の海岸としての魅力もさることながら、レシフェ、オリンド、ポルト・デ・ガリーニャなど、アート、文化・歴史都市としての魅力を探つた。本取材は同州観光局の招待で実現した。

都として急速に発展し、途中、オランダに占領されたが、アラブ系やユダヤ系移民の影響も建築には強く残されるなど多文化な歴史を持つ都市である。街は主に3つの島から成り、運河と橋が多いのが特徴だ。

街の原点マルコ・ゼ

古い建築が残るボン

タ。日本駐在官事務所

もある。

1537年に町は始ま

り、途中、オランダに占

めで設立されたというユ

ダヤ人の集会所シナゴ

グ、民芸品市場があるア

ウファンデガ広場、サン

ヨゼ市場など。

物館、レシフェの守護教

ジエズス通り、南米で初

二バルの名物巨大人形を

展示するエンバイシャー

ダードス・ボネコス・ジ

ガント、フレヴォー・博

場など多くの見所がある。

ペルナンブッコ・カーニバルの名物巨大人形を

ランシスコ教会、サン・フ

ラミカ・フランシスコ・

ブレナン」（工房博物館）

では、今なおフランシス

コ氏が作品づくりを行つ

ており、アトリエを歩い

て、今なお出会える

工夫を凝らして展示され

ており、見えたえがある。

絵画も含め、2000

件を超える作品が

1万5000平方メートル敷地に

設置されている。

10回連続「ブラジル

で最も美しい海」に選ばれ

たこともある。

その魅力はなんといつ

ても、引き潮のときで

きる「ボルトブルー」の

自然美しさが注目さ

れて、観光雑誌の特集で

「鶴の港」の名称の由来

だ。

質素な漁村だったが、

隸が運ばれたことが、「ボ

ルト・デ・ガリーニャス

の木があるヘブリカ広

場など多くの見所がある。

リカルド・ブレナン博物館の展示品の数々は歴史資料と

して見えたえがある。

カーニバル名物巨大人形の博物館

都として急速に発展し、途中、オランダに占められたが、アラブ系やユダヤ系移民の影響も建築には強く残されるなど多文化な歴史を持つ都市である。街は主に3つの島から成り、運河と橋が多いのが特徴だ。

オランダの代表的な観光地として、街のいたるところに作品がある。

マルコ・ゼロは街の原点マーカーとして、古い建築が残るボン

タ。日本駐在官事務所

もある。

1537年に町は始ま

り、途中、オランダに占

めで設立されたというユ

ダヤ人の集会所シナゴ

グ、民芸品市場があるア

ウファンデガ広場、サン

ヨゼ市場など。

物館、レシフェの守護教

ジエズス通り、南米で初

二バルの名物巨大人形を

展示するエンバイシャー

ダードス・ボネコス・ジ

ガント、フレヴォー・博

場など多くの見所がある。

ペルナンブッコ・カーニバルの名物巨大人形を

ランシスコ教会、サン・フ

ラミカ・フランシスコ・

ブレナン」（工房博物館）

では、今なおフランシス

コ氏が作品づくりを行つ

ており、アトリエを歩い

て、今なお出会える

工夫を凝らして展示され

ており、見えたえがある。

絵画も含め、2000

件を超える作品が

1万5000平方メートル敷地に

設置されている。

10回連続「ブラジル

で最も美しい海」に選ばれ

たこともある。

その魅力はなんといつ

ても、引き潮のときで

きる「ボルトブルー」の

自然美しさが注目さ

れて、観光雑誌の特集で

「鶴の港」の名称の由来

だ。

質素な漁村だったが、

隸が運ばれたことが、「ボ

ルト・デ・ガリーニャス

の木があるヘブリカ広

場など多くの見所がある。

カーニバル名物巨大人形の博物館

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。